

施政方針

2月12日、第385回白石市議会定例会で、風間康静市長が施政方針演説を行い、平成22年度の市政運営の基本的な考え方を明らかにしました。厳しい財政状況が続く中で、どのように進めていくのでしょうか。その内容から取り組みを抜粋します。

（問）総務課 22-1331

「元気で活気ある白石市」を目指して

4年目となる「4万人都市復活大作戦」。本年度も今まで通り、子育て支援の充実、定住化の促進、雇用の確保、観光振興、地域医療の確立、行政改革の推進を重点項目として、着実に実行します。



企業誘致が最重要課題

現在、深谷地区に平成23年3月の完成に向けて工業団地の造成工事を進めていることから、雇用の拡大を図るための企業誘致を、本年度の最重要課題として取り組みます。

このため、昨年4月に創設した企業立地推進室を企業立地推進課に格上げし、企業誘致推進および既存企業に対するサポート体制の一層の充実強化を図ります。

さらに、白石市企業立地促進条例を改正し、新たな企業が立地した際の固定資産の10%、最高3億円を限度として交付する「企業立地投資奨励金」を創設するなど、県内トップレベルの優遇制度とします。企業の投資環境は依然として厳しい状況ですが、本市の企業立地環境の積極的なアピールに努め、製造関連企業などの誘致促進に向けて、全力で取り組みます。

■しあわせあふれるやさしいまち

●出産支援

赤ちゃん誕生応援事業（妊婦健康診査助成事業）は、昨年度に助成回数を14回に拡充しました。本年度からは双子や三つ子などの多胎妊娠の場合、さらに7回追加して費用負担軽減策の充実を図ります。

また、子どもがでずに体外受精などの不妊治療を受ける方への経済的支援として、特定不妊治療費助成事業を継続します。

●保育の充実

保育園における延長保育を継続します。また、乳幼児医療費助成事業、保育園・幼稚園に通う多子世帯への負担軽減などの子育て支援を行います。

●放課後子ども教室事業

世代間交流の場として、地域の高齢者など幅広い世代の方と児童の交流の輪を広げることが目的に、越河、斎川、大平、福岡の小学校で実施します。

●高齢者支援

「健康で活き活きと、住み慣れた地域で、自己実現できる高齢者が輝くまち」を基本理念とした「第4期事業計画」に沿った事業補助金を交付して支援します。

■ろまんただよう城下町

●歴史のまちづくり

歴史的、文化的に魅力のある白石城や武家屋敷、城下町回遊ルートや城下広場、すまいるひろばなどを活用し、城下町白石への誘客を図るとともに、中心市街地のにぎわいを創出します。

白石城歴史探訪ミュージアムでは、定期的な企画展示会の開催や、武家屋敷では端午の節句や七草の会などの伝統行事の再現を行います。白石の歴史、文化の紹介を通じて、市民にはふるさとの誇りを、また、白石を訪れた方々には、白石の歴史的魅力を感じる場を提供します。

●文化のまちづくり

地域コミュニティ育成支援事業（やる気応援事業）を引き続き実施し、地域づくりに取り組みむ小規模な団体に助成金を交付します。また、これらの団体を「やる気隊名簿」に登録して、各種市民活動への協力と育成に努めるほか、市民活動ネットワークの輪を広げ、まちづくりを推進します。

さらに、地区公民館の管理運営を行っている地域振興会などが、地区民を対象に実施する生涯学習事業には「さらめき推進

て、環境の整備や介護予防を主とした自立への支援と権利擁護の推進に努めます。

高齢期になっても自己実現と社会参加を促進するため、老人クラブ活動やシルバー人材センター事業への支援を引き続き行います。また、福祉の郷構想による「ほっときゃっするパス」サービスや生きがいデイサービスを実施し、健康寿命の延伸を図ります。

増加する高齢者のみの世帯や1人暮らしの高齢者に対して、自立した生活ができるだけ継続できるようにサポート事業を行います。

●介護予防

生活機能チェックにより、生活機能が低下した高齢者の把握に努め、介護予防教室を開くなどして、介護予防事業の充実を図ります。

高齢化の進行に伴って、認知症の問題も深刻になっていきます。家族だけでなく地域で支える仕組みの構築が求められることから、市民への認知症の正しい知識の啓発など、地域ケア体制の整備に努めます。

また、介護保険制度の利用者の増加により、適切な在宅介護サービスと施設の整備のため、介護事業所の支援に努めます。

●市民バス「きゃっするくん」

本年4月から運賃を改定し、100円から200円となりますが、中学生以下と高校生、高齢者と障害者には、減免により負担軽減を図りながら、さらに利用しやすい運行に努めます。

●障害者福祉事業

現在、障害者自立支援法が大きく変わるうとしています。本市では、昨年3月に策定している「白石市障害福祉計画」に基づき、障害者が自立した自分らしい生活が送れるよう、福祉サービスの充実と体制の整備に努めます。

●教育の充実

学校いきいきプラン、小原小・中学校の体力向上モデル事業（アクアプラン）、学校支援地域本部事業を継続します。

さらに、各小中学校へのアウトリーチ（出前）コンサートなどを積極的に開催し、児童・生徒の音楽とのふれあいの場を創出します。

また、昨年7月には、家族団らんにつながる機会を持つ日として、毎月第3日曜日を「白石市家庭の日」としました。これを市民に広く啓蒙し、定着を図ります。

碧水園舞台開きでの「子ども能楽教室」の発表



白石夏まつりでにぎわう「すまいるひろば」



造成が着々と進む深谷地区の工業団地（平成22年3月3日撮影）

